

プロフィール

東京電力は2016年4月、他の電力会社に先駆け、燃料・火力発電、一般送配電、小売の3つの事業部門を分社化し、持株会社である「東京電力ホールディングス」と基幹事業会社である「東京電力フュエル&パワー」、「東京電力パワーグリッド」、「東京電力エナジーパートナー」に生まれ変わりました。

前身である東京電力は、1951年の設立以来、半世紀以上にわたり発電・送電・配電一貫体制のもとで、高品質な電気をお届けし、社会の発展と生活を支えてきました。しかし、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、福島第一原子力発電所において深刻な事故が発生し、財務基盤と収益構造は大幅に悪化しました。

その対応として、徹底した合理化や経営改革などを取りまとめた総合特別事業計画を原子力損害賠償・廃炉等支援機構と共同で策定するとともに、同機構を割当先とする総額1兆円の優先株式を発行し、資本を増強いたしました。その後の徹底したコスト削減等により、このたび3年連続の黒字を達成しております。

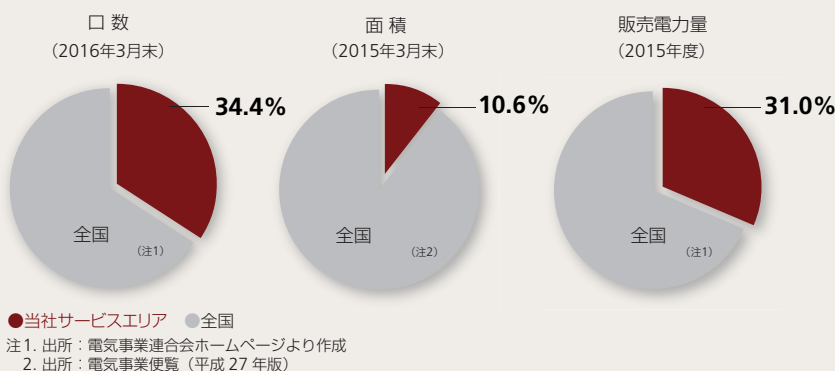
2016年4月に電力小売全面自由化が始まり、経営環境も変わりましたが、賠償、廃炉、福島復興等に責任を持って取り組むとともに、基幹事業会社がそれぞれの特性に応じた最適な事業戦略を遂行することで、「責任と競争」を両立し、東京電力グループ全体の企業価値向上に取り組んでまいります。

TEPCOスナップショット

電力10社のサービスエリア



日本における東京電力の位置付け



目次

株主・投資家のみなさまへ	1
(参考)ホールディングカンパニー制移行後の体制	2
社長インタビュー	3
持株会社および基幹事業会社の取り組み	7
コーポレート・ガバナンス	11
取締役および執行役	14
組織図	15
主要設備	16
主要子会社および関連会社	17
会社概要	18

将来見通しの記述について

本冊子にある計画、戦略、業績予想などに関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、事業開発計画、為替レートなど不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境などが本冊子の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。